

『依存』から『自立』へ…あなたの町『城南』です みんなで創ろう住みよい町を!!

城南かわら版

上田城南地域協議会だより

平成26年3月31日発行
(第8号)

発行元：上田城南地域協議会
(事務局) 市民参加・協働推進課
電話22-4100 内線1354

■ごあいさつ

厳寒の冬を耐えた日々、大雪を融かしてようやく春は桜の花便りが届く候となりました。地域の皆様には如何お過ごしでしょうか。早いもので当地域協議会は平成18年10月に発足してから8年目の第4期(任期は1期2年)も今月で終了し、第5期へリレーします。

地域協議会は、皆さんの声を市政に届けるため「住み良いまちづくり」推進のための調査・研究をしてまいりました。何より大切なことは、市民参加と市民協働による「まちづくり」です。皆さんと一緒に日々を暮らすまち、自分の住む家を良くしようと思うように、地域に思い入れがなければなりません。その時々と距離をおくと、社会の変化に気付かないうちに景色は変わっていきます。日常の生活実感の中から「住み良いまちづくり」の知恵が生まれてくるのだと思います。

そういう意味からも平成20年度からスタートした「わがまち魅力アップ応援事業」はそれなりの成果を取っております。城南地域からは今までに26事業の申請が採択され実施されました。このうち第4期では、12事業が採択されております。いずれも自治会や住民有志の発案で行なわれ展開しております。

これからは地域内分権、住民自治へと進んでいきます。地域の活性化に視点を置き「わがまち魅力アップ応援事業」の活用推進等、地域協議会は何が出来るか皆さんと共に研究・調査に努めてまいります。

間もなく花咲く春です。城南地域が美しい花が咲き揃うまちになりますよう、第4期の終了にあたり協議会20名の委員を代表してご挨拶といたします。

平成26年 弥生3月 会長 **山浦 正嗣**



地域協議会委員として活動した6年が終了します。

地域のために何が出来るか、考えてまいりました。副会長としての2年間は、微力ながら会長とともに地域の皆さんの協力をいただき目的達成のため邁進してまいりました。地域には進めなければならない課題がいくつか残っております。「住み良いまちづくり」は、そこに住む人達の自立しようとする意識なくして成り立ちません。社会は時とともにこれからも変化していきます。まちおこしのため、皆様と協働でより発展する城南地域を期待しております。

協議会で得られた知識や知恵を今後の地域の活動に生かしていきたいと考えています。

副会長 **荒木 昇**

地域協議会の活動報告

市内9地域に設置されている地域協議会は、地域の意見や要望等を集約し、行政に意見を述べたり、地域の重要事項の決定の際、市からの諮問に対して地域の意見を述べ市の施策に反映させていくための協議会です。

上田城南地域協議会では、4つの部会を編成し、平成24・25年度の2ヵ年にわたって地域の課題解決や地域活性化に向けた協議を進めてまいりました。

平成26年1月31日には、「農地の保全と活用に関する提言」を市長に提出しました。詳しい内容は、2ページをご覧ください。

また、市へ提出した意見書は、市のホームページにもアップされています。ぜひご覧になってください。

平成26年2月の地域協議会では、9割方開通した地域の幹線道路「神畑原峠線」と「川辺町国分線」の現地視察を行いました。また、平成25年5月に新たに増設された「上田道と川の駅」の飲食・物販施設の状況も現地視察してまいりました。大雪の影響が残る現地を視察し、市土木課の担当者から説明を受けました。完成後は、渋滞も減少し地域に密着した生活道路となります。



市道川辺町国分線工事現場視察



市長へ意見書を手渡している山浦会長
同席者：荒木昇、西川良幸、牧野良平、
宮下千元、山浦健太郎、宮島かつ子委員



増設された「上田道と川の駅」飲食・物販施設

「里山及び農地の保全と再生について」部会（第1部会）の活動

第1部会では地域まちづくり方針に掲げた「自然との共生を目指す里山の再生と農地の保全」を具現化するため、調査・研究を行い、耕作放棄地、遊休農地の有効利用を目的に、平成24・25年度は「農地の保全」に絞り調査・研究を行ってまいりました。

経過

- 平成24年11月21日 上田市農業委員会・農政課・JA信州うえだとの懇談会開催
- 平成24年12月12日 小牧地籍の荒廃農地の現地調査
- 平成25年 6月 5日 諏訪形、須川地区の荒廃農地の現地調査
- 平成25年 7月 1日 先進地への視察研修（山梨県中央市）
- 平成25年10月 8日～15日 城南公民館から半径750m圏内の耕作放棄地の調査
- 平成25年12月12日 城南地域内の土壌採取（小牧・須川・中之条・上半過・神畑・吉田）
- 平成25年12月13日 土壌分析調査（上小農業改良普及センター）
- 平成26年 1月31日 上田市長あて意見書の提出

須川地区の状況を視察



部会長 西川良幸 副部会長 宮島かつ子
委員 上原より子、長岡美穂、宮下省二、山崎須美江

提出した意見書の内容

- 提言1 耕作放棄地、遊休農地の現状把握について、農地実態調査を自治会及び農家組合等に依頼するなど基本資料の正確な把握に向けた方策を進めること。
- 提言2 耕作放棄地、遊休農地の情報については、一層の有効利用を図るため所有者の了解を得て、広く開示をすることで耕作放棄等の解消につながることを期待されるため、開示に向けて検討を進めること。
- 提言3 農業に関心、興味を持ち、耕作意欲を高める目的で、家庭菜園の耕作面積の拡大に向け、耕作地を必要とする方の実態調査を行い、希望にそった面積の確保等について検討を進めること。
- 提言4 家庭菜園を行うに当たって、農業従事者の方を指導する農家の人達が市民に指導する互助の（仮称）「野菜づくり名人」制度導入を検討すること。
- 提言5 城南地域の気候、風土に合った果樹、野菜等をつくる活動を関係団体が一体で進め、農業分野における連携の促進を図ること。
- 提言6 「上田道と川の駅」や直販施設で地域産の農産物の販路拡大を進めること。
- 提言7 農作物の栽培や調理のちょっとした工夫から生じる話題が、農産物の販路拡大にも好影響を与え、地産地消にもつながるため、農業を活かすために尽力されている方のアイデアをまとめ、PRや継続的な広報を検討すること。
- 提言8 耕作放棄地等を活用した団体の交流の場を設定し、新規の団体の掘り起こしを進めること。

「子育て・高齢者」部会（第3部会）の活動

第3部会では、地域まちづくり方針の「地域で子どもを育てるまちづくり」の具体的施策について、平成24年4月から部会委員5名で、子育てをする世代の皆さんは今何を一番望んでいるか把握するために、関係者の皆さんと懇談を持ち、城南地域内で何が必要か調査しました。

懇談した関係団体

- ：地域の保育園3園、他地域1園
- ：城南公民館を利用している子育て関係団体
- ：上田市子育て・子育て支援課、保育課

この結果、城南地域からは次の要望がありました。

懇談の際の意見

- ：活動する場所がない
- ：もっと年齢の違う世代との交流が必要である
- ：ボランティアの指導者が不足している
- ：保育園の送迎用駐車場の改善が必要である
- ：保育園の男性保育士の増員を検討してほしい

これら地域の意見を踏まえて、市担当部局と懇談の場を持ち意見交換を行いました。

部会長 宮下千元 副部会長 岩下和江
委員 斉藤佐知子、新谷靖代、山浦正嗣



城下保育園視察の様子



子ども未来部との懇談会の様子

「生活道路の安全性整備、公共交通機関の利便性向上」部会（第2部会）の活動

皆さんはもう運賃低減バスをご利用されましたか。

第2部会では、平成25年12月16日発行の「城南かわら版」でもお伝えしましたとおり、「生活道路の安全性整備、公共交通機関の利便性向上」をテーマとして、特に路線バスにどのようにしたら大勢の人に利用していただけるかについて、調査・研究を重ねてまいりました。実際に、城南地域の路線バスに乗り、停留所の位置、停留所の標識の向き、待合用の雨除けの有無、時刻表の設置状況、危険性などを調べ、買物弱者等の地域の有無や解消、また不便さの有無や解消に向けて検討してまいりました。

また、平成25年8月には中央地域協議会と合同で茨城県土浦市へ視察研修に行きました。土浦市のコミュニティ交通対策として、どのようにしたら利用者が増え地域の皆さんに親しまれ街の活性化につながるのか等を研究、検討を重ねてきたと説明を受けました。また、運行開始までの過程が大変な努力と日時を費やして実現出来たこと、運行を開始して利用者も増え、その評判も良いと説明を受けました。視察先では、実際にバスに乗り、乗客に対する様々な配慮が確認でき、とても利用しやすく感じました。

今後の検討課題として引き継いでまいりたいと思います。地域の皆様に、公共交通機関の利便性向上に向けたアンケート調査の実施を検討する中で、地域の様々なご意見をお聞かせいただきたいと考えています。その際は、ご協力をお願いいたします。

路線バスの存続に向け、引き続き「乗って残そう！乗って活かそう！」の取組をお一人でも多く実践していただきますようお願いいたします。

部会長 牧野良平 副部会長 石井信子

委員 石井真奈美、寺島清三郎、西澤尚夫



上田市を走るオレンジバス



茨城県土浦市で乗車したキララちゃんバス

「地域内分権の推進について」部会（第4部会）の活動

第4部会では、新たな住民自治組織の構築に向けて、平成24年度より「地域内分権の推進と実行」をテーマに掲げて検討を進めてきました。

飯田市への視察や勉強会等を通じて情報収集を行うなかで、現段階における当部会の考え方を集約し、平成26年2月28日に主管部である市民参加協働部に提案書を提出して意見交換を行いました。

その内容は、地域経営会議設置目的の明確化、設置地域の範囲、「地域経営会議」の位置づけ（性格）やその名称、主な構成団体（自治会、公民館分館、商工振興会、地区社協、老人クラブ、育成会、PTA、消防団、交通安全協会、学童保育施設など）、既存組織等の存廃や設置・移行時期などです。

部会長 山浦健太郎 副部会長 荒木 昇

委員 荒井貞雄、岩木 功、山浦正嗣



市民参加協働部との懇談会の様子



飯田市鼎地区まちづくり委員会視察の様子



飯田市鼎地区まちづくり委員会事務局

わがまち魅力アップ応援事業の紹介

(平成25年度に活動されているみなさんをご紹介します。)

上田市では、自治会や市民活動団体の皆さんが、地域の課題解決や活性化のために、自主的・主体的に取り組む地域づくり活動を応援しています。平成20年度からスタートした「わがまち魅力アップ応援事業」は、城南地域では平成25年度までに自治会では12件、市民活動団体では14件の事業申請がありました。審査の結果、いずれも採択されそれぞれ活動を行っています。

平成 25 年度に活動中の事業	団 体 名	年目
“子どもや高齢者に優しく思いやりのある町”千曲町、町づくり事業	千曲町自治会	5
地名の由来と地域の歴史遺産を活かした魅力あるふるさとづくり事業	御所自治会	3
天白山石段看板設置事業	下之条自治会	2
中之条地域の歴史遺産を文書化し、絆を深める取組み	中之条自治会	2
荒廃農地を有効活用した地域コミュニティ活性化事業	加美幡そば愛好会	2
吉田いにしえ周遊道路の整備	吉田自治会 好きです吉田会	1
上田原地域の歴史や文化を地元の児童に伝承する事業	上田原地域活性化協議会	1
「モニュメント型遊具の制作と活用」と「プレイゾーン(幼児の遊び場)設置」	上田道と川の駅 おとぎの里	1
「花桃大作戦」(上田道と川の駅及びび里山の景観整備)	上田道と川の駅 おとぎの里	1
「大口水源整備」	半過の水源を守る会	1



御所遊歩道整備と史跡案内板設置(25年4月)



千曲公園の植樹風景「花桃大作戦」(26年3月)



半過「大口水源整備」工事中の水路(26年1月)

《城南さんぽ道》 ～下之条の巻～

火の見櫓を北へ進むと左の田んぼの中に一本の木があり、根元に天文17年(1548)上田原合戦で戦死した村上軍武将「屋代源吾」の墓があります。そして東に300m程のところに、「板垣神社」の鳥居があり、奥に武田軍重臣武将「いたがきのふかた板垣信方」の墓があります。

更に東には大鳥居があり「葦原淵神社」と社名額が懸かっています。拝殿には「若宮八幡宮」とあり、以前は若宮八幡と言われていました。境内には色々な神が合祀されています。岩鼻からの風が強いからか、「風神」と「風社」があります。「男女神」もあります。また、「天白社里宮」があり、長い石段を登って天白山までいられない人には助かります。

千曲川堤防の少し手前に「天下やどり」の碑があります。昔氾濫を防ぐための堤防が430mほどあって、地元ではそう呼んでいましたが、その由来は不明だといえます。



屋代源吾の墓



板垣神社



風神・水神



天白社里宮

◆◆ あとがき ◆◆

城南かわら版第8号をお届けします。第4期の城南地域協議会の活動も3月いっぱい終了します。今回は第4期2年間の各部会の活動内容を中心としてご報告させていただきました。

城南かわら版は、2年間で6回発行をいたしました。ご愛読いただきありがとうございますございました。

今後も地域まちづくりに関する積極的なご意見・情報を事務局までお寄せください。

広報委員：荒井貞雄、岩木功、宮島かつ子